都市と建築のブログ

魅力的な都市や建築の紹介とその3Dデジタルシティへの挑戦

Vol.52
阿寒摩周：神秘

大阪大学大学院准教授　福田 知弘

プロフィール　1971年兵庫県加古川市生まれ。大阪大学准教授，博士（工学）。環境設計情報学が専門。CAADRIA（Computer Aided Architectural Design Research In Asia）国際学会 フェロー、日本建築学会 情報システム技術委員会 幹事、NPO法人もうひとつの旅クラブ 理事など。著書に、都市と建築のブログ 総覧（単著）、VRプレゼンテーションと新しい街づくり（共著）、夢のVR世紀（監修）など。ふくだぶろーぐは、http://fukudablog.hatenablog.com/

4 釧路川源流

はじめに　**福田知弘氏による「都市と建築のブログ」の好評連載の第52回。毎回、福田氏がユーモアを交えて紹介する都市や建築。今回は北海道の3Dデジタルシティ・モデリングにフォーラムエイトVRサポートグループのスタッフがチャレンジします。どうぞお楽しみください。**

ひがし北海道へ

国立公園満喫プロジェクトとして阿寒摩周国立公園で推進されている社会実験「川湯の森ナイトミュージアム」を体感するために、ひがし北海道へ向かった。森と湖と星と火山を活かして川湯温泉地区を再生するプロジェクト。

ディレクターを務めたLEM空間工房・長町氏に案内して頂いた様子は、拙著「都市と建築のブログ 総覧（昨年11月に出版）」に詳しく紹介している。本稿では、この地域について。

関空から釧路へ。関空第2ターミナルは、ターミナルビルから飛行機に直接乗り込むボーディングブリッジはなく、エプロンに一旦出て、タラップから飛行機に乗り込む。エプロンでは、強い風、飛行機のエンジン音や油の匂い、荷物運搬や点検整備用の車が行きかう光景を感じとれる。

たんちょう釧路空港でレンタカーを借り、川湯温泉へ向かう。

けあらし

朝5時半、ロビーに集合して、屈斜路湖のカヌー乗り場へ（図1）。屈斜路湖は、釧路湿原を抜けて太平洋に注ぐ一級河川・釧路川が流れ出る源でもある。この、釧路川源流をカヌーでクルーズ。夜明け前、水面から立ちのぼる霧が湯気のように見えた（図2）。「けあらし」と呼ばれる。屈斜路湖のそばには、温泉が流れ出している川があり、気温と水温の温度差が大きくなるため、ダイナミックなけあらしが発生するそうだ。さらに先週、白鳥が越冬のために飛来していた。ご来光を眺めて、湖から川にゆっくりと入っていく（図3）。道はなく、カヌーでしかアクセスできない自然の空間。川幅は狭く、木々が両側からせり出している。源流に日が差し込めば、けあらしが浮かび上がる（図4）。「鏡の間」と呼ばれるスポットは、湧き水が噴出しており、透明度が高い。

昨夜訪れた「川湯の森ナイトミュージアム」では、ARで森の動物たちに出会えた。スマホに標準インストールされているWebブラウザでAR体験ができるため、インターネットさえつながれば世界中どこでも森の動物たちに出会えるという隠し技がある。川湯の森で体験したARキツネをカヌー上でテストしていたら（図5）、何と本物のキツネが川っぺりを走っていた！

ARキツネは、現実空間のどこにでも表示させることができるとはいえ、現実空間のコンテクスト（文脈）に調和させた方が仮想モデルとはなじむ。例えば、源流をバックにARキツネが登場すると、見たこともない風景だからハッと驚いてインスピレーションを得る人もいれば、あり得ない風景だと違和感を覚えてしまう人もいる。一方、ARヒグマの場合は結構なじんでいる（図5）。さらには、川から本物の鮭がヒグマの目の前に飛び出してくれば、と空想は膨らむ。

尚、釧路川本流には、河口に至るまでダムが設置されていないため、屈斜路湖の釧路川源流から河口までカヌーで下ることもできるそうである。

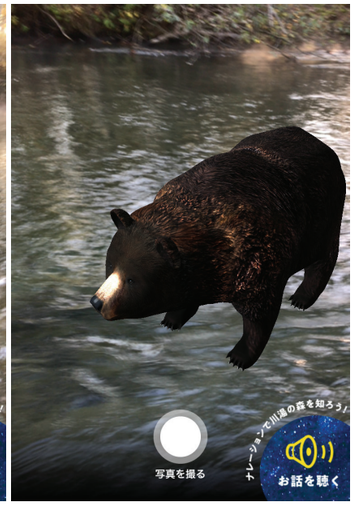
鮭にくわえられた熊

屈斜路湖から弟子屈まで南下して、そこから西へ、阿寒湖に向かう。国立公園内の森は紅葉が始まっていることもありどこも見事であった（図6）。エゾシカが道路を横断したり、道路沿いを歩いている姿も見られた。エゾシカは、以

1 いざ出発！

2 けあらしと白鳥

3 ご来光



5 AR キツネとヒグマ